

中京大学チャレンジ奨励金 最終報告書

2021年 2月 10日

学科・学年スポーツ科学部競技スポーツ学科・2学年

氏名 前田紋華

1. プロジェクト名

chukyo キッチンカーでスポーツ栄養を選手の身近に

2. 活動期間

2020年 7月 1日 ～ 2021年 1月 31日

3. 活動場所(主だった住所・施設名)

豊田キャンパス9号館2階、各部活の練習場所

◆プロジェクトの当初予定していた活動内容
キッチンカーでスポーツ大会にブース出店するために、まずは大学内で部活動生に補食提供をし、実現可能であるのか、また活動を通して選手の食事に対する意識がどう変わるのか調査する。
◆中間報告時に抱えていた課題への対応結果
調理する人数の確保をすることが大変だった。スポーツ栄養に興味のある管理栄養学科の学生に活動場を提供を行なった。 提供先の部活の確保をすることが大変だった。12月提供予定だったソフト部が都合により提供不可になってしまったため、水泳部活への提案をしていたが、途中から連絡が取れなくなってしまい、提供できなかった。 困ったときに相談できる人がいなかったが、活動を続けていると、協力してくれる人が増えていった。
◆プロジェクトの目標達成度合い (活動内容や到達レベル等を具体的に記入してください。成果物があれば、添付してください。)
目標 補食提供を通して、選手と栄養士が関われる機会を作り、食事に困った時には栄養士に相談できる環境を作る。
達成状況 アメフト部の選手で、普段の食事に関する悩みを相談している様子が見られた。大学内で調理場をいただき、そこで営業許可を取得した。他の部活に提供することができなかったため、データがあまり取れなかった。
自己評価による達成度 75%

<p>◆改善点、やり残したこと</p>
<p>こうして、調理場を作ってくださったにも関わらず、思っていたほどの成果が挙げられなかった。ほとんど一人で行ってきたので、困った時に相談できる仲間がおらず、継続させることが難しかった。これからは自分が行うことはもちろんだが、協力してくれる仲間を見つけないと思う。</p>
<p>◆今回のプロジェクトを実施したことにより、どのような気づきを得たか (例えば、成果の活用・利用について、次回のプロジェクト活動に向けての抱負、卒業してからの展望等、自由に記入してください)</p>
<p>市役所とのやり取りや、顧問の先生への説明などとても良い経験になった。小さなことだが、選手と栄養士が話をしている姿を見て、こうして栄養士が身近な存在になったらいいなと、より思った。この活動を通して、様々な方と出会うことができた。その関係で、これまでスポーツ栄養に関心があったが、食の禁忌を持つ人への対応に関する問題を知り、今後はフードダイバシティやフードロスを解決する活動をしていきたいと思っている。</p>
<p>◆次回チャレンジしてみたいこと</p>
<p>今後は、ゼミで、先生や学生の力を借りながら、スポーツ選手と栄養士を結ぶ活動をしていきたい。</p>
<p>◆チャレンジ奨励金制度を活用したい学生へのアドバイス</p>
<p>やる内容よりも、すべき目的や活動を通して自分になりたい姿や、周りに与えたい影響を明確にすることの方が大切だと思う。</p>
<p>◆実施結果（成果） ※必要に応じて写真・現物添付可。枠欄が足りなければ、追加してご記入ください。</p>

